

心のめばえ

<16>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

4歳7カ月
鉄棒

このころ、近所の公園に出かけて、さかんに鉄棒の練習をやっている。もちろん、ジイジなどがついて行くことになるのであるが。

どうして急に鉄棒にこだわりはじめたのだろう。公園に三つぐらいある鉄棒の一番低いやつで、びよびよんと跳び上がろうとしているが、鉄棒がちょっと高いせいか、まだ腕の力が足りないのか、鉄棒の上にあがることは出来ない。

きつと、幼稚園で競い合つて鉄棒遊びをしているのであろう。他の子に負けたくないから密かに練習をしているつもりのようなのだ。まだまだ時間がかかりそう。

何度も何度も飽きずにやっている。そのうちちよつと鉄棒に近づきすぎたのか、アヤが鉄棒に口のあたりをぶつけてしまった。いつもだったら「えーん」と泣き出すところであるが、「うん」と我慢しようとしている。でも今にも泣き出しそう。ジイジが「痛かった？ 大丈夫？」

と近寄つていくと、くるりとジイジに背を向けて、黙っている。きつと、向こうを向いて、涙がぼろりと落ちていっているんだらう。

ジイジ「まだ痛いのか？」

首を横に振る。

ジイジ「そうか。じゃあ大丈夫。ちよつと失敗したね」

首を縦に振っている。

ジイジ「失敗したから腹が立ったのか？」

首をこっくり縦に振る。

ジイジ「悔しかったんだね」

アヤ「うん」

自分の弱さを人に見せたくないという気持ちが生まれてきたのだらうか。向こうを向いて、黙つて立っているアヤを見ていと愛おしくなってくる。

鉄棒の練習に夢中になりすぎて、つい鉄棒に顔をぶつけてしまつてしまつた。少し痛かったが、ぐつと我慢した。でも自分のへまに腹が立つ。涙が出そう。こんなところをジイジには見られたくない。そこでくるりと背中を向ける。悔しさのあまり涙はぼろぼろ出てきてしまう。

アヤの心理状態をジイジ流に分析するところなる。間違っているかも知れない。これはあくまでジイジの観察であつて、アヤの心の中は、これほど事細かに分析できる状態にはないであらう。

幼児といえども、心の働きはどんどん複雑になっていくのだ。こうして人は成長とともに心が複雑化し、強くなつていくのであるらう。

ジイジの 気付き



数々の経験が人の心を複雑で豊かなものに
つなぐ。



プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、
理学博士。京都大学助手、助教授、広島大学教授、学長、福
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀
樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力
学」(裳華房)などがある。東広島市在住。

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係へ